

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	基本技術Ⅱ(コミュニケーション技術)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	12 時間(単位)
対象学年	1学年		学期及び曜時限	前期	教室名	本館2階・202・203
担当教員	重田 由美	実務経験と その関連資格	一般社団法人 日本地域統合人材育成機構 理事長			
《科目目標》						
1. 適切な接遇マナーと共感力を習得する 2. コミュニケーション障害のある患者の理解と対応技術を理解する 3. 関係構築のためのコミュニケーション技術を理解し、臨床現場を再現した模擬演習が実践できる						
《成績評価の方法と基準》						
平常点:①第2回授業後の課題レポート提出(5点)、②第6回模擬演習の実践(10点)、③第6回プロセスレコードを作成提出(5点)、 終講テスト:20点						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
19巻 基礎看護技術 (P20~49)						
《授業外における学習方法》						
学校生活の場で接遇の基本的動作が振舞える。社会生活・実習の場で相手の気持ちを読み取りながら会話する習慣をつけること。						
《履修に当たっての留意点》						
講義最終回には医療場面を事例設定してコミュニケーションの演習を行う。学習効果をあげるためには役割になりきることがコツ。 授業中はひたすら話の意味を理解ために傾聴することがコミュニケーショントレーニングであるとする。 授業進度に伴い、教科書内の問題集を解いておくこと。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	成人学習者としての接遇が修得・確認できる				
	各コマにおける授業予定	挨拶・目上の人々に対する敬語を用いた会話が修得できる 人間関係の構築のための要因を理解する 規律を守ることを理解でき、遵守できる				
第2回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	共感する力を養う		授業後レポート (課題レポート)		
	各コマにおける授業予定	アプラクトドラマの手法を用いた授業展開				
第3回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	コミュニケーションとは 言語障害のある患者への対応を習得する		・テキストP20~ 48	yu-tube鑑賞 (認知症患者) (言語障害患者)	
	各コマにおける授業予定	コミュニケーションの構造を理解する 言語障害患者の実際を理解する 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションを理解する 効果的なクローズドクエスチョンの使い方を習得する				
第4回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	看護場面でのコミュニケーションを体験する		・テキストP42 ロールプレイング 患者のシナリオ 有 リフレクシ ョン① (当日 回収)	実習室(白衣着用)	
	各コマにおける授業予定	患者の気持ちを考えながら看護専門職としてのコミュニケーションを体験し、録画する。その内容を視聴し、自己の課題を見出す				
第5回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	看護場面(ペーパーシミュレーション)から対応を習得する		・配布資料 リフレクション② (当日回収)		
	各コマにおける授業予定	看護場面(ペーパーシミュレーション)の難易度の高いコミュニケーション場面を分析し、適切な支援者としての対応を習得する				
第6回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	患者とのコミュニケーションを模擬体験する		教科書P48 ロールプレイング 患者のシナリオ 有	実習室(白衣着用) 課題:自己の演習場面 を撮影した動画を再生 し、プロセスレコードを 作成し提出	
	各コマにおける授業予定	透析のシャント増設術後の患者(患者役は教員)とのコミュニケーションを模擬体験し、録画する (課題)録画からプロセスレコードを作成し、患者・看護師のp心 情を振り返る				